

## 競技者必携改訂事項（抜粋）

### ① 背番号の規制緩和

#### ●連盟規程細則 第3条3（2）

背番号は監督30番、コーチ29番、28番、主将10番とし、選手は0番から27番までとする。

↓

背番号は監督30番、コーチ29番、28番、主将10番とし、選手は0番から99番までとする。

#### ●連盟規程細則 第12条5（3）（4）

（3）背番号は0番から30番までとし、参加申込書に記載されている選手は、全員必ずつけなければならない。

（4）監督30番、主将10番とし、少年部、学童部のコーチは29番、28番とする。また、一般チームでコーチをおく場合も29番、28番とする。

↓

（3）背番号は0番から99番までとし、参加申込書に記載されている選手は、全員必ずつけなければならない。

（4）すべての登録チームで、背番号は、監督30番、主将10番、コーチは29番、28番とする。

### ② スパイクに関する規制撤廃

#### ●連盟規程細則 第12条5（8）

（8）スパイクは全員、同色のものでなければならない。ただし、ワンポイントの商標については同色とみなす。また、学童部は、金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。

↓

~~（8）スパイクは全員、同色のものでなければならない。ただし、ワンポイントの商標については同色とみなす。また、学童部は、金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。~~

### ③ 選手登録を背番号順に記載する

#### 根拠

- （1）打順表と登録原簿との読み合わせを行う上で、背番号順にすることにより見やすく、かつ照合が容易でスムーズに行われる。また、チームの背番号の書き間違いを無くする効果もあると思われる。
- （2）現状は、投手・捕手等のポジション順に、かつ若番順に記入しているが、試合では複数の守備をこなすため、ポジション順にすることが重要な要素ではなくなった。
- （3）背番号が0番から99番までの場合、数字が大きくなればなるほど、若番に整理されている方が確認しやすくなる。

④ サングラスについて

サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、ミラーレンズの使用を禁止する。



「ただし」以下を削除

根拠

- (1) ミラーレンズサングラス（以下「ミラーレンズ」という）を着用しても、他の選手に影響を及ぼすことはないため使用を認めるものである。ただし、投手の使用については、打者への配慮から現状どおりサングラスを禁止するものである。
- (2) 眼球を紫外線から保護するという観点からすれば、ミラーレンズの方が優れており、健康上の理由からしても学童から一般まで、形、色等を問わず使用を認める。